令和６年度　基本評価調書			所管部局	環境生活部	所管課	文化振興課、道民生活課	
施策名	独自の歴史・文化の発信・継承				施策コード	0310	
政策の柱	歴史・文化・スポーツ				政策体系コード	3(6)A	
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策						事務事業数 15
特定分野別計画	北海道文化振興指針、総合教育大綱						
SDGs					総合判定	概ね順調	
予算額（千円）	R6	552,742千円	R5	535,851千円	R4	543,164千円	

施策目標	・ユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の適切な保存と活用を図るため、国内外に向けてその価値を広く発信するとともに、北の縄文官民連携プラットフォームの活用による官民一体となった取組を展開する。 ・北海道博物館を核として地域の博物館などとも連携し、本道ならではの歴史や文化を発信する取組を推進し、次代に継承する。 ・市町村や民間企業等の協力を得ながら、「北海道みんなの日」（愛称：道みんの日）の認知度を高めていく。
現状と課題	（縄文世界遺産の保全と活用） ・縄文遺跡群の有する価値や魅力を伝えるため、受入体制や国内外に向けたコンテンツの充実が必要である。 ・縄文遺跡群を適切に保存・管理し、次代に継承するため、情報発信を継続して行うほか、担い手育成が必要である。 （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・人びとの生活意識や価値観の多様化などにより、文化が果たす役割が大きくなる中、北海道独自の歴史や個性的な地域文化への理解を深め、次世代に確実に継承してくとともに、新たな地域文化を創造、発展させていく必要がある。 （道みんの日啓発） ・「北海道みんなの日条例」で定めた“道みんの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にある。

〈主な取組〉

今年度の取組	（縄文世界遺産の保全と活用） ・〔縄文遺跡群世界遺産本部（4道県及び市町）〕国内フォーラム開催、魅力発見・発信事業 ・〔道〕縄文世界遺産の価値や魅力に関する普及啓発 （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・北海道の歴史・文化に関わる「資料の収集・保存」、「展示」、「調査研究および成果の発信」、「教育普及」、「情報発信」 ・北海道の中核的博物館の取組として、北海道博物館協会の事務局を担い、また、地区ブロック等とも連携して、同協会の大会を開催する （道みんの日啓発） ・道みんの日の認知度を高めるための啓発、市町村・関係団体への協力要請
実績と成果	（縄文世界遺産の保全と活用） ・〔道〕R6.7に「縄文世界遺産　登録3周年記念フェスタ」をサッポロファクトリー会場（7/15）及び大通BISSE会場（7/27）で開催し、それぞれ約6,000人、360人が来場し、縄文世界遺産の認知度向上、価値や魅力の発信が図られた。 （ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用） ・R6.5に閉館したセンチュリーロイヤルホテルの回転レストランで使用されていた食器などを新たに収集。R6.4.27～6.23まで企画展「北海道樹木万華鏡」を、R6.7.20～9.23まで特別展「みんなの鉄道」を開催。研究成果の発信としては、所属学芸員が笹川科学研究奨励賞を受賞した研究成果について報告会を開催し、他の博物館関係者と共有を図ったほか、報道機関を通じて道民の皆様に成果を広く発信した。 ・北海道博物館協会の第62回北海道博物館大会を7月11日（木）に開催し講演会や研修会を実施した。 （道みんの日の啓発） 〇記念事業 ・「北海道みんなの日：U－18メッセージコンクール」を実施（応募期間6/17～9/3） ・「道みんがっこう」の実施（開催日6/7、7/17） →記念事業の実施（R4 1回　R5 1回　R6　3回） 〇市町村、関係団体と連携した取組を実施し、道みんの日の周知に努めた。 →市町村立施設の無料解放・割引（R4 44施設　R5 39施設　R6 49施設　） →ホテルと連携し、道みんの日に合わせた道産食材を使ったメニューの提供（R4 9施設 R5 9施設　R3 9施設） →民間企業の協力による記念セールなどの実施（R4 8社　R5 6社　R6 6社） →お菓子、お酒メーカーと連携した啓発資材等の配布（R4 30店舗 R5　26店舗　R6 25店舗）

参考HP①	北海道博物館HPおしらせ	https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/news-2/
参考HP②	文化局文化振興縄文世界遺産推進室	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/index.html
参考HP③	北海道みんなの日について	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dms/ss/717/event.html

令和6年度 基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

〈指標分析〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
縄文世界遺産認知度		目標値	-	-	65.0	80.0	101.5%	A
		実績値	-	-	66.0			

設定理由	北海道公式XなどSNSのアンケート機能を活用することにより、縄文世界遺産に対する一般道民の理解浸透度合いを測ることができ、道の情報発信等の取組の成果を推測することが可能。		
指標公表時期	毎年度10月集計	出典(根拠計画等)	北海道環境生活部調べ

分析(主な取組と成果)

R5.8に開催した縄文世界遺産2周年記念シンポジウム(札幌市)やR5.7～10に北海道博物館で開催された「北の縄文世界と国宝」展に、それぞれ約300人、約4万4千人が来場し、縄文世界遺産に対する理解浸透が進んだ。

指標名②	増加	人	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
北海道博物館の利用者数		目標値	124,900	124,900	140,800	168,100	86.0%	C
		実績値	37,532	124,391	121,045			

設定理由	北海道博物館を核とした本道固有の歴史・文化の発信に係る効果的な取組状況を測る指標であり、課題である本道ならではの歴史や文化を継承・発信する取組の推進の成果を測る指標として設定。		
指標公表時期	毎年度末集計、6月頃公表	出典(根拠計画等)	北海道総合計画(北海道博物館調査)

分析(主な取組と成果)

R5年度は特別展「北の縄文世界と国宝」や企画展「もっと！あっちこっち湿地」を開催。目標値には届かなかったものの、コロナ禍から大きく回復したR4年度と同程度の利用者数は確保し、本道の歴史・文化の理解促進に一定程度つながった。

指標名③	増加	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
道みんの日の認知度		目標値	62.7	62.7	62.7	62.7	59.3%	D
		実績値	62.7	46.5	37.2			

設定理由	道みんの日を広く普及させるという北海道みんなの日条例の趣旨を踏まえ、直近で最も高い値(R3年度)を目標値として設定。		
指標公表時期	毎年不定期	出典(根拠計画等)	北海道環境生活部調べ

分析(主な取組と成果)

7月17日の「道みんの日」を中心に、ポスター・チラシの掲示・配架や公式インスタグラムなどSNSによる発信、市町村等と連携した施設の無料解放や広報誌への掲載、民間企業等の協力を得て啓発品の配布や割引等のサービスの提供により各種取組を進めてきたところだが、令和5年度アンケート調査による道みんの日の認知度は37.2%に留まっている状況。
アンケート調査から、道みんの日を知ったきっかけを見ると「ポスター・チラシ」(31.6%)・「道や市町村の広報誌」(21.9%)と比較して「ホームページ」(13.8%)や「SNS」(6.9%)は認知度向上への貢献度が低いことから、貢献度を高めるための活用方法の検討が必要。

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由			
指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) (縄文世界遺産の保全と活用) ・縄文世界遺産の保全と活用にあたっては、遺跡群が分散して所在することから、北東北3県、関係市町及び民間団体と連携・協働しての取組が必要。 (ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用) ・北海道の中核博物館として、道内の博物館等との連携や道政上の諸課題を踏まえた各機関との連携を進める。 ・すぐれた文化資源を多く有する施設として、博物館振興や文化資源を活かした地域の活性化に寄与するため、文化庁や自治体等との連携を進める。 「北海道みんなの日条例」で定めた“道みんの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にあり、庁内はもとより市町村・企業・団体などと連携した取組をさらに進める必要がある。
	(取組と成果) (縄文世界遺産の保全と活用) ・R4.12、R5.12に北東北3県及び関係市町から地域ガイドを参集し、ガイド研修・交流会を開催し延べ約100人が参加し、担い手育成に繋がった。 ・R6.7に開催した「縄文世界遺産　登録3周年記念フェスタ」において、関係市町及び民間団体からの出展を行い、道内関係機関による統一的な情報発信を図った。 (ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用) ・北海道博物館協会事務局として道教委や日本博物館協会との連携を強め、新たな加盟館獲得等の成果を得ている。道内地域連携では、総合政策部地域振興局地域政策課に事務局を置く「北海道恐竜・化石ネットワーク研究会」や道内外博物館等と連携し、特別企画展「北海道の恐竜」を実現させる等、連携した成果を確認できる。 ・文化庁の進める文化観光推進事業への参画に取り組んでいる。 道みんの日については、市町村と連携し市町村立施設の無料開放・割引などの取組や企業等と連携し、道みんの日に合わせた記念セール等の実施や道産食材を使用したメニューの提供、啓発物品の配布などに取り組んでいる。

緊急性 優先性	(課題) (ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用) ・北海道博物館は開設50年、開拓の村は40年を迎え、施設老朽化が不可避となる中、長寿命化工事等の対策を進めている。 「北海道みんなの日条例」で定めた“道みんの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にあり、引き続き、周知に向けた取組をさらに進める必要がある。
	(取組と成果) (ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用) ・長寿命化工事等の工程等を踏まえた企画展示の計画を策定する等、施設整備と整合するかたちでの事業計画を策定している。 道みんの日については、市町村・企業・団体等と連携した取組を行ったほか、道立施設の無料開放、公式インスタグラムでの情報発信や道民参加型の取組である「北海道みんなの日 U－18メッセージコンクール」や「道みんがっこう」を実施し、周知を図ったところ。

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
開拓の村の利用者数	40,414人(R3)	120,427人(R4)	130,905人(R5)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
北海道独自の歴史や多彩な生活様式などに根ざした個性的な地域文化への理解を深めるとともに、次世代に確実に継承していくため、文化発信の拠点としての取組に関する周知が必要。

(状況) 令和5年度はコロナ禍から回復したインバウンドが堅調であったことや、開拓の村が撮影に協力した映画が公開されたことによる注目度の高まりなどから、前年度より約9%の増加となった。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)	
(状況)	

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)	
(状況)	

令和6年度 基本評価調書	【3(6)A_0310】独自の歴史・文化の発信・継承

〈総合判定〉

指　標　判　定	C※	連　携　状　況	○	総　合　判　定	概ね順調
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標
（道みんの日の認知度）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	縄文世界遺産の認知度を高め、実際に縄文遺跡群への訪問を促す取組を継続して実施するとともに、構成資産等を所有する市町と連携・協力し受入体制（コンテンツの造成やガイド育成など）の強化を図る。
	②	本道の歴史や文化の理解促進に向け、幅広い世代に人気のあるテーマによる特別展の開催や、文化観光拠点計画の事業における展示の多言語化や展示改修を実施し、博物館の魅力を高め利用者数の増加などに努めていく。
	③	令和5年度のアンケート調査から、道みんの日を知ったきっかけを見ると「ポスター・チラシ」「広報誌」は認知度向上に関する貢献度が高い一方、ホームページやSNSの貢献度が低いことから、更なる認知度の向上に向けては、より効果的なポスター・チラシの掲示場所や配架場所の工夫、より多くの市町村との連携を進め広報誌への掲載機会、無料開放施設の拡大に努めるほか、ホームページの内容の充実や閲覧を誘導する方法の工夫、SNSを使った情報発信の拡充に努める。

〈二次政策評価〉

二次政策評価	【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用のため、北海道の成り立ちからの歩みや明治以降の開拓、そして現代に至るまでの本道ならではの歴史や文化の継承・発信を推進することが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応	文化観光推進拠点計画の事業に基づき、道立総合博物館の展示の多言語化や展示改修を実施するとともに、開設から10周年を迎えることによる記念展示や記念フォーラムを開催するなどし、博物館の魅力を高め利用者数の増加などに努めていく。	
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	縄文世界遺産の保全と活用を図るため、構成資産等を所有する市町と連携・協力し、北海道における縄文世界遺産の拠点形成に取り組むとともに、情報発信コンテンツの充実化により価値の発信の強化を図る。また、ガイド養成や教育旅行・観光旅行の誘致に備えた検討を進め、受入体制の強化を図る。
	②	本道の歴史や文化の理解促進に向け、幅広い世代に人気のあるテーマによる特別展等の開催や、文化観光拠点計画の事業における展示の多言語化や展示改修を実施するとともに、開設から10周年を迎えることによる記念展示や記念フォーラムを開催するなどし、博物館の魅力を高め利用者数の増加などに努めていく。
	③	令和5・6年度のアンケート調査の結果を踏まえ、より効果的なポスター・チラシの掲示場所や配架場所の工夫、市町村広報誌への掲載機会の拡充に努めるほか、ホームページの内容の充実やスムーズに閲覧につなぐ工夫、SNSを使った情報発信の拡充、記念イベントの開催や各種イベントと連携した取組を実施することにより認知度向上に努める。

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	独自の歴史・文化の発信・継承	施策コード	0310

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	出先機関	人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応（令和6年度） 次年度方向性	二次評価意見への対応状況
0801		一般	文化発信拠点づくり推進事業	北海道歴史・文化ポータルサイト及び北海道デジタルミュージアムの運営等、北海道の歴史・文化に関する情報発信に係る業務	文化振興課	0	623	623	0.5	0.0	0.5	4,628					
0803		投資的経費B	野幌森林公園施設整備費（施設建設事業費）	野幌森林公園の施設改修等に関する業務	文化振興課	0	9,000	9,000	0.0	0.2	0.2	10,602					
0804		維持費	野幌森林公園管理費	北海道博物館及び野幌森林公園の維持運営のための業務	文化振興課	0	3,256	3,256	0.0	0.7	0.7	8,863					
0805		事務	野幌森林公園利用指導業務	野幌森林公園利用者の指導、苦情対応、普及啓発、広報、統計事務等	文化振興課	0	0	0	0.0	0.7	0.7	5,607					
0806		事務	野幌森林公園許認可業務	道立自然公園である野幌森林公園内における各種行為の申請等に係る許認可等業務	文化振興課	0	0	0	0.0	0.3	0.3	2,403					
0807		一般	北海道博物館事業費（情報システム分除く）	北海道博物館の展示事業、教育普及事業等の実施	文化振興課	0	15,644	15,644	0.0	18.3	18.3	162,227					
0808		事務	北海道博物館事業費（情報システム分）	収蔵資料データベースの管理、HP閲覧システムの運用経費	文化振興課	0	0	0	0.0	0.1	0.1	801					
0809		一般	北海道博物館試験研究費	北海道博物館の調査研究活動	文化振興課	0	13,637	6,433	0.0	9.9	9.9	92,936					
0810		一般	北海道博物館管理運営費	北海道博物館（本館）、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理運営（指定管理業務）	文化振興課	0	409,161	408,776	0.0	1.9	1.9	424,380					
0811		一般	開拓の村費	開拓の村の維持管理運営等に関する業務（委託料）	文化振興課	0	2,297	2,297	0.0	0.3	0.3	4,700					
0816		一般	樺太記憶継承事業	（一社）全国樺太連盟から委譲された資料の保管、調査研究を行うとともに、展示等に活用し、文化振興を図る。	文化振興課	0	6,033	0	0.0	0.2	0.2	7,635					
0834		一般	北海道博物館特別展	縄文遺跡の価値・魅力を全道に広め、縄文遺跡への来訪を促進する特別展開催に係る経費（北海道博物館特別展の開催）	文化振興課	0	10,000	10,000	0.0	1.1	1.1	18,811	②	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	改善	文化観光推進拠点計画の事業に基づき、道立総合博物館の展示の多言語化や展示改修を実施するとともに、開設から10周年を迎えることによる記念展示や記念フォーラムを開催するなどし、博物館の魅力を高め利用者数の増加などに努めていく。
0835		一般	野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業（文化観光拠点施設機能強化等事業）	「北海道歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」に基づき展示改修等を行い、コロナ禍で減少したインバウンド需要の再取得を目指すための経費	文化振興課	0	26,340	9,313	3.0	1.8	4.8	64,788	②	改善（指標分析）	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照	拡充	
0836		一般	縄文世界遺産活用推進強化費	ユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の適正な保存と活用を図るとともに、国内外に向けて、その価値を広く発信する。	文化振興課	0	54,888	51,888	5.0	0.0	5.0	94,938	①	改善（取組分析）		改善	
0818		一般	「北海道みんなの日」活動事業費	「北海道みんなの日」（愛称：「道みんの日」）を広く道民や観光客に周知・定着させるため、各部局及び民間企業と連携した事業及びPR活動を実施	道民生活課	0	1,863	1,863	1.0	0.0	1.0	9,873	③	改善（指標分析）		改善	
計						0	552,742	519,093	9.5	35.5	45.0						